1−7. 疾患モデル教育研究センターにおける災害対策マニュアル

改正　平成 22(2010).9. 1

目　　次

1. 総　則
2. 災害時における初期対策
3. 異常発生時の連絡先
4. 災害時における伝達・情報収集経路
5. 復旧作業
6. 災害対策マニュアル
7. 緊急連絡網
8. 防災備品一覧
9. 被害状況チェックリスト

1. 総則

1) 藤田保健衛生大学疾患モデル教育研究センター(以下疾患モデルセンターという)において火災、地震、その他の自然災害等が発生した場合、または予知される場合に対処する防災対策について必要事項を定め、災害時における被害の軽減を図るとともに災害の復旧を円滑に行い、災害対策に関し疾患モデルセンターとしての責務を果たすために必要な事項を定める。とりわけ、動物資源の保護ならびに環境への影響防止のため、災害発生時にはセンター長、疾患モデルセンター教職員の指揮の下で対応を整える。
2) 本マニュアルは、「藤田学園防災対策規定」に準拠する。
3) 本マニュアルは、疾患モデルセンター教職員および疾患モデルセンターに出入りするすべての人に適用する。

2. 災害時における初期対策

1) 災害が発生した場合、疾患モデルセンター教職員勤務時間内は管理室へ、夜間・休日は防災センターおよび守衛室に連絡する(内線電話が使用不能な場合は、直接赴き連絡を行う)
2) 災害発生時には身体の安全を確保し、避難することを原則とするが、災害規模が小さければ初期消火や動物の収容確認等を行う。
3) 動物への対応
   - 動物は直ちにケージに収容し、ケージを飼育棚に戻す。
   - ケージの落下防止装置を確認する。
   - 飼育棚の転倒防止装置を確認する。
   - 上記の対応ができない場合は、ケージを床に置く
   - 災害発生時には動物が飼育室あるいは実験室の外に逃亡しないよう心がける。ただし、緊急の場合はこの限りではない。
4) 運転中の機器への対応
   - 運転を緊急停止する。
   - オートクレーブ滅菌装置等は直ちに緊急停止ボタンを押して機械を停止させ、電源を切る。
   - 可能であればオートクレーブの蒸気バルブを閉栓する。
5) 使用中の薬品への対応
   ・落下しないよう床に置く等の対処をする。
   ・引火性・爆発性のある薬品については豊明市火災予防条例が定める方法に従う。

6) 使用中のガス・電気・水道・蒸気への対応
・直ちに使用を中止し、元栓等を閉める。
7) 飼育室・実験室からの避難
・避難時には動物が逃亡しないよう扉を閉める。ただし、緊急の場合はこの限りではない。

3. 異常発生時の連絡先

センター長	内線 2434
管 理 室	内線 2447
教 員 室	内線 2449
施設部(時間内)	内線 2043
防災センター(夜間・休日)	内線 2040
守衛室(1 号館 B1)	内線 2403

4. 災害時における伝達・情報収集経路

1) 勤務時間内の場合
(1) 災害発生時の通報・教職員への連絡
＊勤務時間内は管理室に連絡後、防災センター、守衛室に連絡する。
・ 管理室は防災センター、守衛室に連絡後、災害の状況を確認し、センター長に連絡する。
・ センター長の指示に従って分担して各飼育室等に大声で知らせる(センター長が不在の場合は教職員の指示に従う)。
・ センター長(不在の場合は教職員)は災害の状況を確認し、防災センターまたは施設部および守衛室に報告する。
(2) 救出あるいは初期消火活動
・ 災害の程度が軽い場合には、センター長等の指示に従い、逃げ遅れた人の救出および初期消火活動等を行う。
(3) 職員・利用者の安否の確認
・ 疾患モデルセンター利用者の状況や職員の作業場所をセンター長に連絡し、安否を確認する。
(4) 疾患モデルセンター外への避難
・ エレベーターは使用しない。
・ 管理室前扉、近くの非常口あるいは階段を使用して避難する。
・ 避難時には開けた扉は動物が逃亡しないよう閉める。ただし、緊急の場合はこの限りではない。
2) 夜間および休日の場合
(1) 疾患モデルセンター教職員の疾患モデルセンターあるいは指定場所への集合
疾患モデルセンター教職員は、
・ 可能な限り出勤する。
・ 出勤できない場合は、センター長に連絡する。
・ 疾患モデルセンターに入室できない場合は指定場所で待機する。
(2) センター長の指示に従って疾患モデルセンター教職員の安否・出勤の可否について教職員同士で確認する。

3) 利用者における留意点
(1) 災害発生の通報
① 疾患モデルセンター教職員の勤務時間内
・ 疾患モデルセンター内に大声で事態を知らせる。
・ 管理室に連絡する。その後管理室から防災センターおよび施設部、守衛室に連

絡する(内線電話が使用不能の場合は直接赴き守衛室に知らせる)。

② 疾患モデルセンター教職員の勤務時間外(夜間および休日)

・防災センターおよび守衛室に連絡する。

(2) 疾患モデルセンター外への避難

・ 近くの非常口あるいは階段を使用して避難する。
・ 避難時には開けた扉は動物が逃亡しないよう閉める。ただし、緊急の場合はこの限りではない。
・ エレベーターは使用しない。

(3) 疾患モデルセンター教職員への状況報告

・ 後日、実験中の動物に対する対応及び避難経路について報告する。

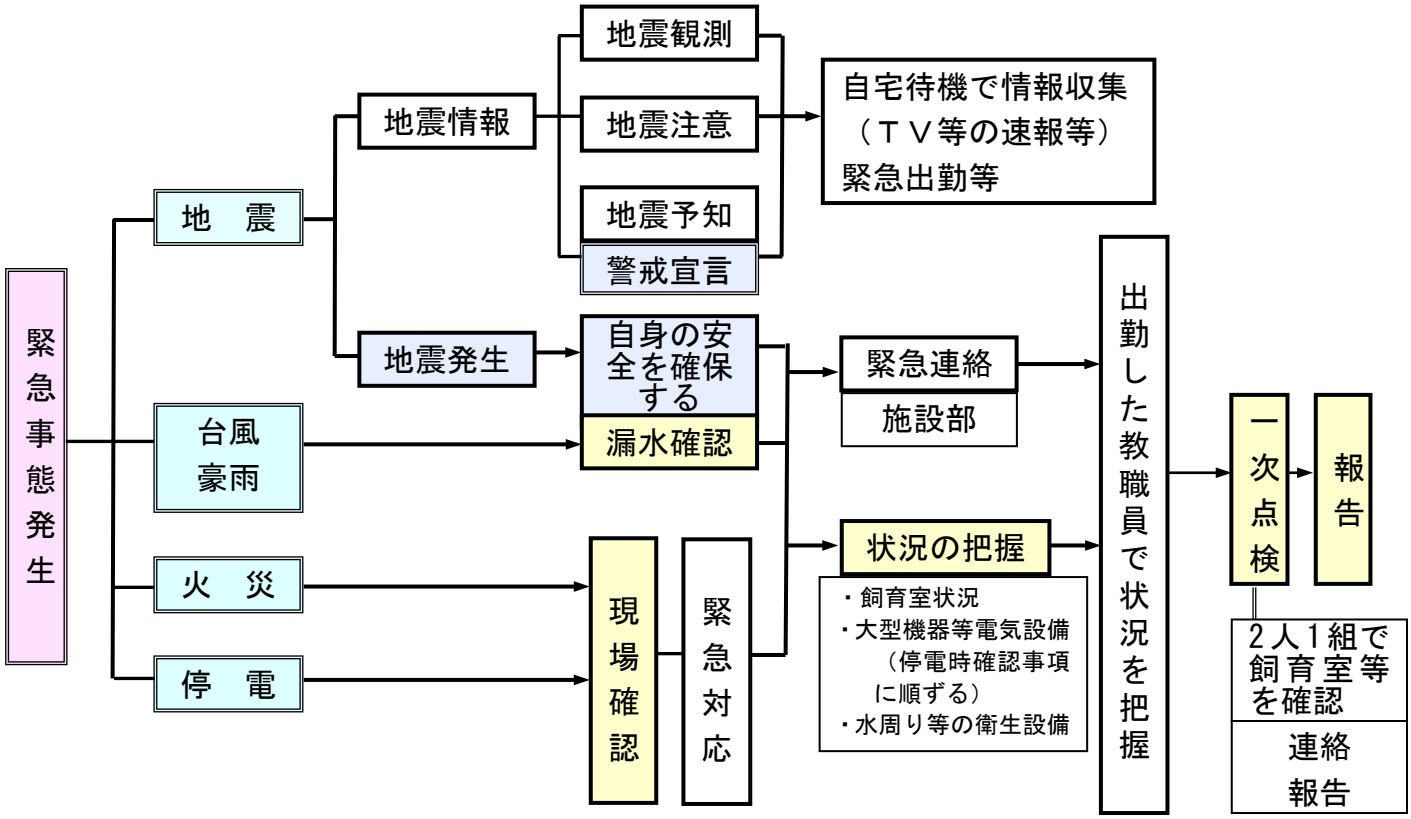
5. 復旧作業

1) 疾患モデルセンター全体の被害状況の概要を把握する。
2) センター長は、疾患モデルセンターに対策室(被害に応じて管理室や教員室等)を設け、疾患モデルセンター教職員の安否、出勤の可否などを確認した後、出勤してきた教職員により具体的な被害状況を把握し復旧行動計画を練る。また、被害状況などを大学の災害対策本部にも報告する。運営委員及び動物実験委員の中で、対策室で活動できるものがいれば、協力を仰ぐ。
3) 疾患モデルセンター全体の被害状況の調査は二人一組になり、ヘルメット等の安全装備の上、懐中電灯を持ってそれぞれの飼育室等を中心として被害状況を確認し、その都度対策室に連絡し以後の対策方法の指示を待って行動する。
4) 災害後の機器の点検
   ・ 建物の安全確認後、各機器を点検し正常に作動するか確認する。正常運転不能な場合は、修理等の手配を行う。
   ・ 各講座が所有している機器を点検し、正常運転が不能な場合は疾患モデルセンター外に持ち出す。
   ・ 施設内の整備等の理由により、疾患モデルセンターが機器の持ち出しを要請した場合所有者はすみやかに講座に持ち帰る。
5) 点検項目
   (1) 飼育室:飼育室内の動物の脱走の有無、飼育ラックの移動や転倒、水漏れや給水排水装置の異常などを確認する。非常時には緊急措置として逃亡動物の飼育室外への逃亡防止策を講ずる。
   (2) 実験室:実験機器の異常の有無と、薬品保管庫内の試薬瓶の転倒、破損の有無を確認する。
   (3) 倉庫:消毒や薬品、器材の転倒破損状況、飼料、床敷の保管状況などの確認を行う。
   (4) 疾患モデルセンター(もしくは医学部 1 号館)の外観、空調設備、エレベーターなどの建物構造:施設部職員と綿密に連絡を取りあって被害状況を把握する。
   (5) 感染動物実験室:実験している講座の感染動物実験責任者あるいは実施代表者と連絡を取り、感染事故の無いように注意して被害状況を把握する。
6) 対応策
   (1) 対応策をセンター長及び対策室で協議する。
   (2) 建物の安全確認後、災害時に放置した実験中の動物の状態について確認し、逃亡動物の収容・選別(やむをえない場合は安楽死処置)、給餌・給水体制の確立、動物屍体の処置、飼飼室や実験室の清掃・消毒処理など、順次緊急を要するものから復旧作業に取りかかる。
   (3) 災害の規模が大きく、全動物を適正に維持することが困難と判断された場合、動物実験実施者が実験動物を安楽死させる。
   (4) 建物、空調機などの被害に関しては、施設部との連絡を綿密に取りあって、協力して対応にあたる。

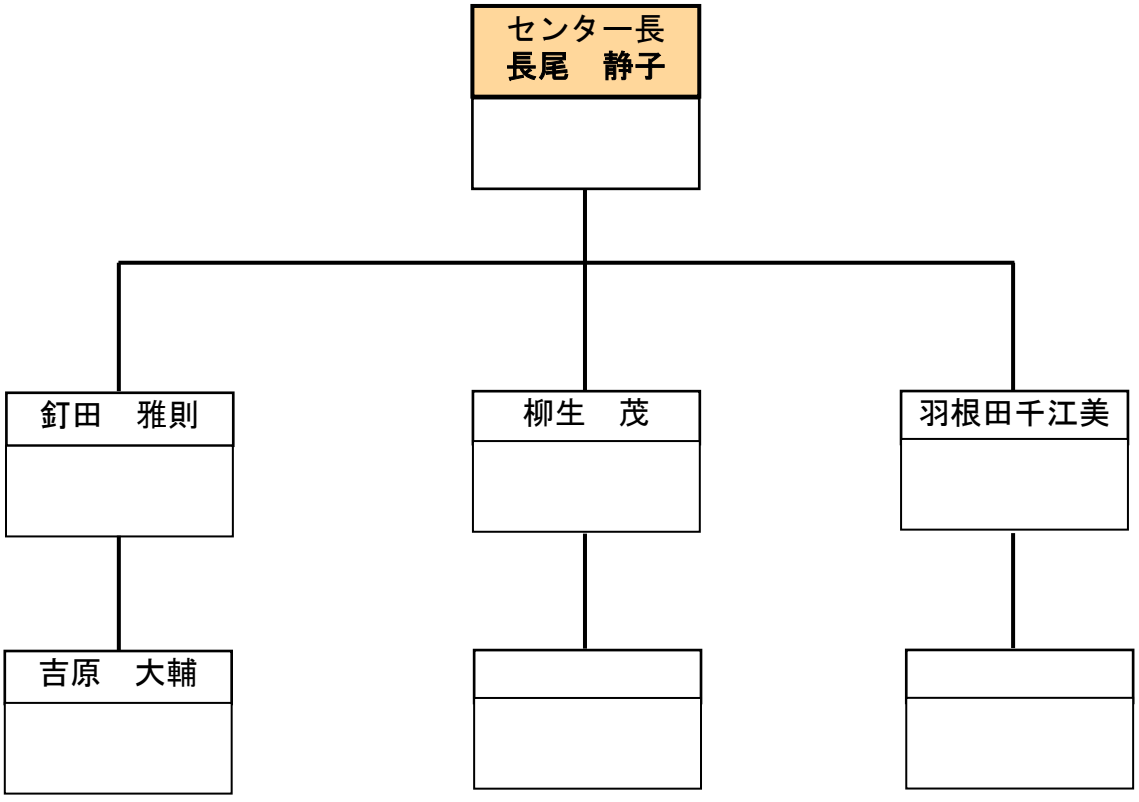
7）災害発生時、センター長は、下記事項を速やかに学長及び関係部署に報告する。また、必要に応じ、文部科学省 研究振興局学術機関課庶務・学術資料係ならびに公私立大学動物実験施設協議会会長校に連絡する。
(1) 人身事故の有無
(2) 動物への被害
(3) 建物・設備などの被害
(4) ライフラインの状態
(5) 物的・人的応援の必要性
(6) その他

8）その他
・ 夜間疾患モデルセンターを使用する場合は、停電を想定して懐中電灯等を用意する。
・ 各自で必要と考えられる措置を実施し、後日疾患モデルセンターに連絡する。

疾患モデル教育研究センター災害対策マニュアル概要



疾患モデル教育研究センター緊急連絡網（平成 23 年 1 月現在）



防災備品一覧表（センター常備品）

品　名	規　格	員数	設置場所	担当
移動式救助工具セット	平バール(600mm)	4	SPF1 エリア	吉原
	ハンマー1.3Kg			
	万能斧		SPF2 エリア	吉原
	油圧ジャッキ		クリーンエリア	釘田
	折畳みのこぎり			
	ゴーグル		管理室（コンベアリア）	羽根田
	クレモナロープ			
	防塵マスク			
	軍手			
ヘルメット	脱げ防止機構つき			
ダイナモライト	1 分の充電で 30 分使用	3	SPF1 エリア、 SPF2 エリア、 クリーンエリア	
懐中電灯	単一電池使用	2	管理室（コンベアリア）	羽根田
メガホン	単一電池使用	2	SPF2 エリア 管理室（コンベアリア）	吉原 羽根田
救急箱	消毒、絆創膏、包帯 鎮痛剤等	1	管理室（コンベアリア）	羽根田
その他				

被害状況チェックリスト

日時 ： 年 月 日(曜日) 午前・午後 時 分

チェック項目		状 況
死亡者		
負傷者		
行方不明者		
火災発生エリア		
水漏れエリア		
飼育室状況	SPF1 エリア	
	SPF2 エリア	
	クリーンエリア	
	コンベエリア	
電 気		
水 道		
電 話		

参考資料

・学校法人藤田学園「防災対策規程」
・藤田保健衛生大学病院「災害対策マニュアル」
・藤田保健衛生大学施設部「緊急時防災マニュアル」
・藤田保健衛生大学病院放射線部「災害時の連絡通報体制」
・藤田保健衛生大学病院医療ガス安全管理委員会「災害時対応マニュアル」
・名古屋大学「自然災害対策規程」
・神戸大学「動物実験施設における災害対策マニュアル」
・島根大学「総合科学支援センター実験動物分野における震災などへの対応について」
・鹿児島大学「防災マニュアル（事務局）」
・山形大学「防災規程」
・豊明市火災予防条例